



貞永幸一朗 《Hopes and Dreams》 キャンバス、油絵具 1620 × 4220 mm

《Hopes and Dreams》  
夢と希望に基づく絵画における自己表現  
《Hopes and Dreams》  
Self-Expression in Painting Based on Hopes and Dreams

貞永 幸一郎  
Koichiro SADANAGA

崇城大学大学院芸術研究科美術専攻  
Division of Fine Art, Graduate School of Art, Sojo University



《Hopes and Dreams》  
キャンバス、油絵具 1620 × 4220 mm

本作《Hopes and Dreams》は私自身の夢と希望を描いたものである。この題材を選んだ理由として、私自身の心に存在する果てしなく賑やかな世界を表現したかったためである。「夢と希望」という言葉に対して私のイメージする空間、情景を S 100号一枚と F 100号二枚（1620×4220）からなる三部構成のキャンバスに描く。全体的に虹色のイメージを着彩しており、三部構成と重ねてそれぞれ右から暖色、中性色、寒色といった印象が連鎖するよう描いている。虹色の着彩については私自身の虹色という色の連鎖に対する認識から来ており、虹色についてのポジティブな認識を「Hopes and Dreams」といった言葉に繋げたいと考えたのが主な理由である。

私の感じた「夢と希望」といったイメージを表現する際、私は私自身の幼少期をキャンバスに描くことを決めた。そしてその手を取りながら朝日の見えるステージへと導く人物を描く。この人物は私がこれまでの作品を通して描いてきたものであり、私の作品における支柱となる人物である。この人物や画面を構成する下部の人物達、朝日の昇るステージを「夢と希望」といった言葉に重ね、私自身の人生における新たな段階へと進んでいくといったメッセージも込められている。「油彩」を選んだ理由として、私がこれまで6年間洋画コースとして油絵を学んできたことの集大成として油彩で綺麗な虹色を描き、私自身のポジティブなイメージをこれまで続けてきた「油彩」という表現方法で描きたかったためである。

私はこれまで自身の思い描く空想の世界を表現する制作スタイルをとっており、本作《Hopes and Dreams》は私のこれまで描いてきた空想世界の一つの区切りとなる作品である。手を引く人物や下部に描かれている人物は私のこれまでの作品を通して描いてきた人物であり、虹色のイメージもまたこれまでの作品を通して築いてきた私の着彩における一つの成果である。そして私の連想するポジティブで楽しい空間を構成するため、花火や朝日そして羽の付いたステージを描く。それらを「夢と希望」といった言葉に重ね修了制作として描くことで、これまでの人生における一つの折り合い、そしてこれから始まる私自身の人生に向かい合うための作品となっている。私の抱く「夢と希望」といったイメージの元に本作《Hopes and Dreams》を描き、私自身のこの先の人生を照らす「夢と希望」になることを願って制作を行った。